

北海道教育委員会教育長 様

北海道浜頓別高等学校長 三 井 智 和

次のとおり令和5年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

(1) 主体的に学ぶ生徒の育成を目指し、授業での基礎学力の向上とより高い次元で学ぶ力の育成を図る。
(2) 教職員及び地域・保護者間での学校課題の共有に努め、改善に向けた協働体制を構築する。
(3) 服務規律の遵守と働き方改革を推進し、信頼関係に基づく教育活動を展開する。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

【教育活動に関する評価】

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	○ 授業改善や生徒理解について、更なる力量形成が必要。 ○ 観点別学習状況の評価について、適切に運用されているとともに、教員間の共通理解が得られている。 ○ 学力差が大きい生徒への対応について、検討及び実施が必要。	生徒の学力向上のため、一層の授業改善及び教員の力量形成を期待したい。また、スタディサプリ等のICT活用に係る指導を充実させてほしい。
改善方策	○ 新しい評価基準に係る研修を更に重ね、生徒の学習意欲向上に繋がる評価の在り方について理解を深めていく。 ○ 学力が高い生徒層への手立てとして、現状よりも高い目標設定をもたせ、高い学力を身に付けさせていく。	
生徒指導	○ 生徒会行事の評価と具体性を持った改善を実施できた。(アンケートの活用、返し) ○ 保護者との情報共有やいじめの未然防止に係る取組の周知に対する指摘がある。	各種アンケートの結果をフィードバックすることは、大変よいことである。今後もアンケート結果をどのように教育活動に生かしていくかを考えていただきたい。
改善方策	○ 臨場指導を徹底するとともに、指導の一貫性、統一性を図る。 ○ 保護者との「顔が見える」ような関係を構築するため、日常的に情報共有を徹底していく。	
進路指導	○ 例年どおり高い進路決定率を維持している。 ○ 進路実現のための学力を高めるための効果的な指導はできているものの、進路希望に相応する学力が不足している生徒への指導が課題となっている。	本校の進路決定に係る情報を、中学校にわかりやすく周知していただきたい。また、小学校、中学校そして高等学校へと系統的なキャリア教育が必要である。
改善方策	○ 生徒の、家庭学習を含む自主的な「学びの習慣」を意識的に定着させ、主体的な学びの力をつけ、その上で伸長に繋がる指導を加えていく。 ○ 生徒へ進路先に係る情報提供及びキャリア教育の一層の推進を図っていく。	
健康・安全指導	○ 健康意識・安全意識については、一定の成果を残した。 ○ 今年度より実施した教科担任会議を含め、生徒情報の共有が十分図られている。 ○ 社会情勢の変化に伴う新たな危機が想定されるので、危機管理マニュアルの精査と改訂が必要である。	生徒の健康・安全について、今後も学校として目を配ってほしい。
改善方策	○ 生徒の情報を共有し、職員全体で指導・支援できる体制づくりを進める。 ○ 危機管理マニュアルの見直しと改訂を進めていく。 ○ 教科の指導と生徒指導の一体化を一層進めていく。	

【学校運営に関する評価】

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
信頼される学校づくり	○ 中高連携の推進に係り学力向上や学ぶ姿勢の育成など、義務教育から高校への接続に必要な事項の共通理解が必要である。 ○ 情報発信は工夫しながら行う事ができた。	異校種との連携は大切なことである。小学校、中学校、高等学校と合同で一貫した取組があってもよい。
改善方策	○ 生徒の学びの連続性を意識する上で、中学校や小学校での学びを知ることは重要である。他校種の授業参観や交流を効果的に進める。 ○ P T A活動の一層の充実を進めていく。	
組織運営	○ 最終退勤時間を設定し、時間を意識した業務遂行に努めた（前年比月平均、15時間の勤務時間縮減）。 ○ 部活動休養日の設定・実施は進んでいる。	今後も教職員のコンプライアンスの意識の高揚及び遵守するとともに、働き方改革への取組を生徒に伝わらせることも大切である。
改善方策	○ 内部的な業務整理を引き続き進める。 ○ 業務の専業・分業を見直す。	
教職員の資質向上	○ 今年度は、「校内・地域連携研修」を活用し、評価等に係る大学教授の講演会及び授業改善を目的に、本校教員を先進校への視察を行い、教員の力量形成に努めることができた。	初任段階教員が多い、本校教職員が、今後も研修等を通して力量形成を図っていただきたい。
改善方策	○ 外部研修の成果を交流する校内研修の実施や、研修資料の職員回覧などを実施して、個人の研修内容を共有して、全体の資質向上への材料とする。	
公表方法	学校ホームページ・保護者配付文書において公表	